Message

設立5周年に際し、
お寄せいただいたメッセージ

まちだづくりカレッジを受講し、
自団体の羅針盤になる土台を持つことができました。

サポートオフィスが設立してから、「空気」がガラッと変わりました。
「アナログ」から「デジタル」に変わったといってもいいくらいに、
イベントに「新風」が吹き込まれました。

これからも
「老若男女が活きいきと、
光り輝く元氣なまちだ！」
にしていきましょう！

サポートオフィスの事務所の不思議は、
窓がなくても空気が流れているように感じることです。
それはきっと、一人ひとりが外に開かれた窓を
持っているからなのだと私は思います。

町田ってどんな町ですか、と聞かれたら、
都心から30分ほどで帰ってこられる、便利な町だよ、と言っていました。
町田ゼルビアが生まれてからは、休日が楽しい町ですよ、と誇れるようになりました。
サポートオフィスに出会ってからは、いっしょに、もっと楽しい町づくりをしたくなりました。

箱を持たないソフトで勝負という
新しいカタチを見事成功させましたね。
地域活動の「案内人」であり「支援者」でもある
重要な役割を担っている存在だと思います。

迷いながら悩みながら
なんとか進もうとしている
私たち市民活動団体にとって、
駆け込み寺のような存在です。

私たちの活動もまだまだよちよち歩きですが、
瞬間、瞬間を大事に、これからもよろしくお願いします！

「きっと僕たちの街は変えられる！」って思わせてくれる皆さん。
これからもどうぞよろしくお願いします。

一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィス
〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9−8 町田市民フォーラム4階
www.machida-support.or.jp

2024年8月発行

町田市地域活動サポートオフィス 5th Anniversary Book 2019−2023

町田市地域活動
サポートオフィス

町田市地域活動サポートオフィス
5年間の歩みを振り返るアニバーサリーブック

ご挨拶

一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィスは、皆様のご支援とご協力により設立5周年を迎えることができました。改めて厚く御礼を申し上げます。

この間、AIに代表されるように、急速なIoT、ICTが進み、ライフスタイルの多様化も進展しました。また今後町田市においても、少子化・超高齢化、独居世帯の増加等の影響や地域のつながりの希薄化が進むなど、社会状況の変化が見込まれます。こうした社会環境等の変化の中だからこそ、共に支え合い、助け合い、誰もが安心して、しあわせにくらせるまちづくりを目指し、これからもサポートオフィスは、まちの困りごとに取り組んでいる、若しくは市内で様々な活動をしている個人・団体のサポートやその個人・団体の特徴・強みを生かした地域活動への発展を応援する、つながりをサポートする組織でありたいと考えています。これまで以上に皆様に近い存在として、一緒に地域課題の解決や皆様がやりたいことの実現に向け、サポートオフィスの活動を拡充していきたいと考えています。引き続き皆様からのご支援とご協力をお願い申し上げます。

一般財団法人 町田市地域活動サポートオフィス
代表理事 榎本悦次

町田市地域活動サポートオフィスについて

ビジョン
私たちが目指すもの

まちの困りごとにみんなが楽しく取り組み、
自分らしくいられる「まちだづくり」
※「まちだづくり」とは、「まちだ」で行う「まちづくり」を表現した言葉です。

ミッション
私たちが果たす使命

ビジョン実現に向けて
「つくる」「ささえる」「つなげる」に取り組み、
地域や社会をより良く「かえる」

バリュー
大事にしている価値観

よき「伴走者」であり、
よき「翻訳者」であること

立ち上げ支援
つくる
組織と事業の立ち上がりや地域活動を軸とした交流の場づくりをします

経営支援
ささえる
助成金・広報等の講座実施や個別相談などを通じ、組織と事業の運営をサポートします

協働支援
つなげる
人と組織、組織と組織など多様なつながりづくりをサポートします

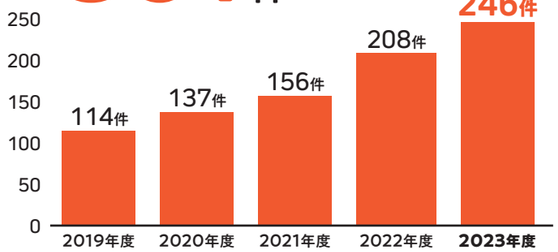
変革支援
かえる
地域活動の活性化や仕組みづくりを通じて、地域をより良くかえていきます

Data

数字で見るサポートオフィス 2019−2023

2019年度の設立当初から取り組んできた主な事業を、数字でご紹介します。
※年度記載がない項目は5年間の総数を記載しています

相談件数
861件



市内市民活動実態調査

回答団体総数 170団体

実施件数 2件（2019年と2023年に実施）

資金調達支援数
44件

講座の実施回数
106回

講座参加者数
のべ1,887人

学生と地域をつなぐプログラム
のべ29団体

学生71名が参加
（13大学・高校生6名）

まちだづくりの地域活動コミュニケーション冊子「サポートオフィス通信」発刊号数
46号

SNSフォロワー数（2024年5月21日時点）

Facebook	instagram	X（旧Twitter）
1,713人	1,265人	1,064人

メールマガジン登録者数
（2024年5月21日時点）
773人

History

年表と写真で振り返る5年間の歩み

2019年4月の設立時、町田市地域活動サポートオフィス（以下サポートオフィス）は3名の職員でスタートしました。現在は、職員7名となり、事務所も2023年に「市民協働おうえんスペース」をオープンし2部屋となりました。そして何より開所した時からは考えられないほど多くの方々とのつながりが生まれました。5年間のサポートオフィスの事業と歩みを時系列で振り返ります。

言葉の説明

※1
地域活動団体の活動のヒントや市内で活躍する団体やその取り組みを紹介し、年10号発行。2023年度末時点で46号を発行。

※2
通称まちカフェ！。市内で活動するNPO、市民・地域活動団体、ボランティアなどが実行委員会を組織して開催する市内最大級の市民協働イベント。サポートオフィスは2020年度から実行委員会事務局を担当。

※3
サポートオフィスのロゴは、漢字の「町田」とMを組み合わせている。カラーは、ピンクはサルビア、青はカワセミ、緑は多摩丘陵、黄色は市民の希望、シルバーは黒子でありつつ光る存在をめざす当法人を表している。

町田市地域活動
サポートオフィス

※4
イベントと日常をつなぐ協働のプラットフォームとして、毎月第1木曜日（祝日等の場合変更あり）に市役所にサポートオフィス職員が終日出張し、地域活動に関する様々なご相談や打ち合わせを実施。毎回、プチ講座（助成金説明会や広報講座など）やワークショップの時間を設け、様々な方にご参加いただいている。

2019年度

■ 2019.03
開設記念シンポジウム開催

■ 2019.04
サポートオフィス公式ホームページ公開

開所式（職員3名入職）

■ 2019.06
初の主催講座 市民活動のための「助成金セミナー」開催

■ 2019.09
「サポートオフィス通信 創刊号」発行（※1）

■ 2019.10
伴走型連続講座「まちだづくりカレッジ」初開催（10月18日～12月20日）

■ 2019.11
「障がいのある人の生涯学習を考える～ともに学ぶ場づくりを目指して～」（「町田市障がい者青年学級」より受託）

■ 2019.12
第13回町田市市民協働フェスティバル まちカフェ！（※2）出展
～寄付ってなぁに?親子で体験してみよう！～

■ 2020.01
地域活動に関する調査研究事業アンケートを実施。196団体に発送し、85団体から回答

開所式
開所式でサポートオフィスのロゴ（※3）を見た石阪市長が、その形が家に似ていることから「サポートオフィスが地域活動のHOMEになれるといいね」と言ってくださったことが、職員の励みになった。

まちだづくりカレッジ最終回の写真
地域活動を担う団体を対象に、事業を進める上で必要な知識を学ぶ連続講座。対話を軸に団体の抱える課題を考え解決策を探る。最後はA3用紙1枚に事業計画をまとめ発表を行う。

2020年度

■ 2020.04
職員2名入職

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急アンケート実施

オンライン講座初開催「ファシリテーション基礎セミナー～成果の出る「場」づくりのヒント～」

オンライン対話の場「まち“だ”づくりサロン」「みんなで話そう、活動の悩み、工夫、これからのこと」開催

わらしべワークプロジェクト実行委員会に参加（ひきこもり等の若者と地域をつなぐ協働事業）

■ 2020.06
学生おうえん隊事業スタート
3団体に8名の学生が参加

■ 2020.07
まちカフェ！の事務局を担当
「コロナ禍でも市民活動の灯を消さない」を合言葉に実行委員会をオンラインで開催

■ 2020.08
「みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田」町田市社会福祉協議会と連携しクラウドファンディングを実施、154名の方々から113万円の支援があり、その支援金を10月に12団体に助成

■ 2020.10
まちカフェ！公式ホームページ公開

■ 2020.12
第14回町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！「まちカフェ！10days」開催～コロナ禍のため分散開催、オンライン実行委員会にチャレンジ

■ 2021.03
「SDGs」関連講座初開催

クラファン実行委員会集合写真と基金のチラシ
ご支援いただいた資金は、町田市社協の方々と設立した〈みんなでコロナを乗り越えるぞ基金@町田〉の原資に充当。新型コロナウイルス感染拡大に伴い影響を受けている人へ支援を届けている12の団体へ助成を行った。

オンライン実行委員会の様子
講義や打ち合わせにオンラインをいち早く取り入れ、そのノウハウを元にまちカフェ！の実行委員会全体会議をオンラインで開催。オンラインツールのスキルアップ講座を数多く実施した年になった。

2021年度

■ 2021.04
職員1名入職

■ 2021.05
大学でのゲスト講師依頼増加

■ 2021.09
インターン生企画「若い世代に活動を上手に発信するためのInstagram&Twitter相談会」開催

まちだハッピーマルシェスタート（ウェルシア薬局と地域福祉団体、NPO、高齢者支援センターとの協働事業）

■ 2021.10
まちカフェ！公式ホームページリニューアルオープン

まちだづくりサロン特別編 山岡義典氏講演会
私が動く、地域が変わる
～今見つめ直す市民活動の価値と未来～開催

■ 2021.11
第15回町田市市民協働フェスティバル まちカフェ！開催

■ 2021.12
年末まちだフードドライブ大作戦実施
@原町田中央通り
（町田市社会福祉協議会と連携）

大学での授業風景
法政大学・桜美林大学をはじめとする授業やイベントに登壇する機会が増えた。ボランティア活動を活かしたキャリア選択について話をする機会にもなり、大学との連携事業を実施する契機となった。

まちだづくりサロン特別編
地域活動のレジェンドを町田にお呼びする〈まちだづくりサロン　特別編〉。山岡氏の「市民活動は少々効率が悪くても『ごちゃまぜ』のほうが、いざという時に楽しいし強い」という言葉はサポートオフィスの座右の銘に。

2022年度

■ 2022.04
みんなの経験共有会初開催

まちカフェ！オープンデー（※4）の定期開催をスタート

■ 2022.05
「ふだんの活動に“プラスON”交通安全・防犯協働事業」説明会開催（町田市市民生活安全課より受託）

■ 2022.09
社会福祉法人まちだ育成会研修実施

まちだづくりサロン特別編 松原明氏講演会
「協力」のテクノロジー～「違う」を大切に協力できる地域をつくる～開催

■ 2022.11
第16回町田市市民協働フェスティバル まちカフェ！開催

■ 2023.01
20代が使いたくなる！交通安全啓発グッズプロジェクト実施
（町田市市民生活安全課より受託）

横浜市神奈川区地域づくり大学校で「みんなの経験共有会」を開催

■ 2023.02
SDGsフェスタまちだ
（町田青年会議所主催）出展

■ 2023.03
都立小川高校「総合的な探究の時間」へ登壇

第1回目のみんなの経験共有会の様子
〈一人ひとりの経験や挑戦を市民の知にしていく場〉として企画。開催レポートをサポートオフィスホームページに掲載することで、町田の地域活動のノウハウや体験・経験のコンテンツ化も図っている。

まちだ育成会での研修風景
団体の抱える課題やニーズを伺い、組織や事業計画づくりを目指す研修メニューを開発・実施。地域活動団体のみならず、団体間のネットワーク機能を持つ組織からの講師依頼などもお受けする契機となった。

2023年度

■ 2023.04
職員（アルバイト）1名入職

「市民協働おうえんスペース」オープン

みんなの経験共有会オンライン開催

■ 2023.05
まちだづくりカレッジ
アドバンスコースにて協働事業
「まちだこどもアクション」スタート

■ 2023.07
わたし×困りごと=地域ではじめる
小さなしごとづくりセミナー開催

農福連携事業一反パートナープロジェクト
@町田実施

■ 2023.08
昭和薬科大学地域連携センター
地域活動実践プログラムスタート

■ 2023.09
まちだづくりサロン特別編 川北秀人氏講演会
調べるちから、伝えるちからを身につける
～「薄書（はくしょ）」でもいいから、「白書」を作ろう！～開催

南成瀬中学校で地域活動の授業に登壇

■ 2023.10
桜美林中学校で地域活動の授業に登壇

■ 2023.12
第17回町田市市民協働フェスティバル まちカフェ！開催

農福連携事業のじゃがいも堀り風景
企業支援型農福連携事業として、民間会社と市内の自然栽培農家・NPO法人・子ども食堂、そして行政とが協働し事業を開催。この時期から事業間連携・協働事業のコーディネートの依頼をいただく機会が増えた。

南成瀬中学校での授業の様子
南成瀬中学校1年生を対象にした地域協働学習で、市内の地域活動の実態や活動の様子などを紹介。市内の中学校との連携の契機となった。その後、希望者はまちカフェ！で地域活動団体へのインタビューを実施。

Talk

サポートオフィス職員座談会

この5年間で一番印象に残っていること

5周年アニバーサリーブックを作成するにあたり、さまざまな角度からサポートオフィスの5年の歩みを振り返る職員座談会を行いました。まずは一人ずつこの5年間の中で印象に残っていることベスト3を発表し、その後私たちが大切にしている価値観についてキーワードを出し合いました。ここからは、座談会の様子とそこから見えてきた**〈地域をつなぐ7つの心がまえ〉〈地域をつなぐ5つのアクション〉**をご紹介します。**〈まちだづくり〉**を進めるヒントにしていただけますと幸いです。

座談会に参加した職員たち。左から山根香、杉山亜紀、杉山久美子、喜田亮子（サポートオフィス事務局長）、長浜洋二（サポートオフィスの設立準備期から2023年度まで事業統括ディレクターとして従事）、橋本空、大谷光雄。

オンライン会議や市内各地の会場開催等工夫を凝らした「まちカフェ！」

杉山亜紀：設立年の翌年には新型コロナウイルス感染症が広まり、直接会って会議やイベントができなくなりました。その中でもオンラインツールなど工夫を重ねて、まちカフェ！（※1）を中止することなく実施できたことが印象的でした。

長浜：まちカフェ！は市として10年以上にもわたる取り組みで、長く続けているイベントにはよくあることですが、目的が曖昧になっていたように感じていました。あらためて“協働って何だ?”を問い直すところから始め、今もなお、その点を大事にしながら、正解も終わりもない、改善を続けていますよね。

大谷：コロナ下では「一緒に乗り越えよう」という気持ちが協働を進めたと感じます。対面・オンラインとそれぞれの良さも体感しました。サポートオフィスもその時の状況に合わせた柔軟な動きや体制づくりができてきた日々でもありましたよね。

喜田：まちカフェ!は、学生おうえん隊やオープンデー等どんどんプログラムが確立していき、2023年度はなんと中学生が学習の場としてまちカフェ!初日の市役所会場に来てくれて感動しました。まちカフェ!が地域活動のことを知りたい、やってみたいという人のための舞台になったなと感じています。

山根：確かに。まちカフェ!のみならず様々な事業で学生とのつながりがすごく拡大してきていますよね。知らないと選べないから、地域活動やボランティアは体験してもらうことが第一歩。未来の活動の担い手作りにもなっていますよね。あと私は「まちカフェ！365日」という名言が心に残っています。この言葉はサポートオフィスのスタンスを表しているし、町田の地域活動が365日になっていくとすごくいいなと思います。

地域をつなぐ 7つの心がまえ

地域や人をつなぐ私たちの想いや姿勢をまとめた7つの心がまえ。これからも職員一人ひとりの胸に刻み続けていきます。

1. 徹底的に聴き、想いの言語化をお手伝いする
2. それぞれの「やりたい」「うれしい」を繋ぎ合わせる
3. 出番と機会をつくる
4. 「まずは小さくとも一歩を踏み出す」を応援する
5. やめる・やらないも応援する
6. 「正解」は探さなくてもいい
7. どんな意見も宝の山

心に残る対話が生まれる場、そして雑談力の魅力

喜田：「みんなの経験共有会」シリーズ（※2）もサポートオフィスらしい取り組みだなと感じています。毎回とてもいい話が聞けて感動するんですが、実施に向けて私たちがやっていることは結局「登壇者の人選」だけだって最近気づきました。登壇者を決める時の私たちの熱量はすごいですよね（笑）。話を聞き、その人の思っていることを引き出せると、登壇者がすごく満足してくれる、というのも大きな発見でした。

杉山久美子：私はサポートオフィスの「雑談力」を挙げたいです。サポートオフィスには〈●●会議〉や〈●●検討会〉というものがなく、情報共有や物事の決定はほぼ日々の会話の中で行っているんですよね。この規模のスタッフ数だからできるのだと思いますが、とにかくみんなよくしゃべる（笑）。私はこの時間があるから自信を持って案件を進めていけるんですよ～。

山根：「雑談力」という話は、この前のランチでも話題になっていましたよね。スタッフ全体での情報共有力が半端ないんですよね。同時に2～3個の話題が並行して話されていて、どんどん方向性が定まっていく…サポートオフィスの特徴の一つかもしれません（笑）。

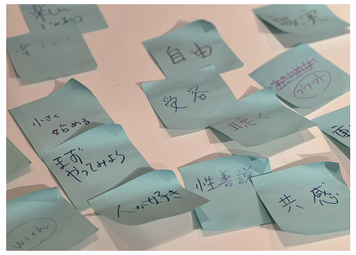
※1 まちカフェ！：町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！のこと。サポートオフィスは2020年度からまちカフェ！の事務局を担っている。
※2 みんなの経験共有会：2022年4月からスタートし、2023年度末までに16回を開催。詳細はP07の〈「まちだづくり」4つの仕組み〉参照。
※3 ペルソナ：大きなカテゴリー分けで選んだ対象を、より具体的な人物像として明確化したもの。

地域をつなぐ 5つのアクション

この5年間を振り返る中で出てきた「やってよかったこと」「こうしたらうまくいったこと」を5つにまとめました。活動を進める一助になれば幸いです。

1. **一緒に手と足と口を動かす**
   真ん中にモノや作業を置くことで、距離が近づく。壁の花にならない。
2. **会議室を飛び出して会いに行く**
   相手のフィールドで話をすると相手がもっと見えてくる。
3. **ペルソナ（※3）は実在する人物でイメージする**
   事業やイベントなどすべての取り組みに対し、メンバーで共通認識を持てる具体的な人をペルソナにする。
4. **敢えて「期間限定プロジェクト」をつくる**
   期間を設定することで、頑張れるしチャレンジできる。振り返りの機会も作れる。
5. **親しみやすい「名付け」をする**
   事業も役柄も場所も名付けることで、現実が付いてくる。

例えば
- おうえんスペース
- Let's 協働タイム
- まちカフェ！インクルーシブ研究会（まち研）
- 学生おうえん隊



座談会で出し合った〈私たちが大切にしている価値観〉の一部。当日は、職員一人ひとりが、自分の想いを語りながらポストイットに書いた言葉を説明していきました。

地域活動の大先輩から学ぶ価値創造という役割

橋本:私は1つに絞るなら「まちだづくりサロン特別編の山岡先生の講演会」（P04参照）です。学生の頃からNPOの役割は課題解決だけなのか?というのが疑問でした。あの日、山岡先生からNPOの価値は課題解決だけではなく価値創造という重要な役割があるというお話を聞けて、その後のNPOとの関わり方にすごく影響がありました。

杉山久美子:本当にそうですよね。サポートオフィスは地域のお困りごとだけではなく、新しい価値を作っていくことに対しても応援団でありたいなって改めて考えさせられた時間でしたね。

橋本:開催レポートとして当日の様子をホームページに掲載するために、山岡先生の講演をほぼ全部文字起こしした時は視界不良になったけど（笑）、今でも年に何度か読み返しながら、地域活動の醍醐味やその魅力を噛みしめています。（※4）

※4 サポートオフィス主催の講座やイベントはほぼ全て記事化し、ホームページに掲載。地域活動の面白さや団体運営のヒントをお読みいただけます。

実施報告はこちらから

長浜:そうですよね。課題解決であれ価値創造であれ、既に地域にある様々な人や組織を“つなぐ”ということがサポートオフィスの役割。既にあるものを捉え直し、繋ぎ合わせることで何が生み出されるのか。これからも様々なチャレンジをしていきましょう！

「まちだづくり」4つの仕組み

私たちの5年間の成果として生まれた4つの仕組みを紹介します。今後も継続性や発展性を高めながら横展開ができる仕組みを目指していきます。

1 みんなの経験共有会

活動する方の経験や知恵を市民の共有の知として言語化し記録しようという想いからスタート。トークイベント&WEBコンテンツ化を実施。他地域でも展開中。

2 学生おうえん隊

学生と地域団体をつなぐ、まちカフェ！内の取り組み。まちカフェ！というゴールに向けて学生と団体が協働する。期間限定でゴールが明確であることで成果へつながった。

3 まちカフェ！オープンデー

〈まちカフェ！365日〉を合言葉にイベントと日常をつなぐ協働のプラットフォームとして実施。活動や協働のヒントをつかめる講座をはじめ、多彩な催しを同日に開催している。

4 まちだづくり応援基金

町田市内で活動する方を応援したいという想いを持った方からのご寄付により立ち上がった仕組み。みなさんとこれから育みたいです。

寄付受付中

まちだづくり応援基金 MACHIDA CHALLENGE FUND

EVENT REPORT

2024.5.24

サポートオフィス5周年記念イベント開催!

2024年5月24日、町田市生涯学習センター7階ホールにて「サポートオフィス5周年記念イベント」を開催し、市内外より85名の方にご参加いただきました。

イベントは、サポートオフィスが普段から大事にしている「参加」と「対話」を中心としたプログラムを企画。多くの交流が生まれる時間になりました。ここでは、当日のメインプログラム〈フィッシュボウルトーク:私が取り組んでいる「まちだづくり※」、みんなと取り組みたい「まちだづくり※」〉についてご報告します。

※「まちだづくり」とは、「まちだ」で行う「まちづくり」を表現した言葉です。

フィッシュボウルトークとは、良い対話を深めつつ、その内容を参加者全員で共有するための対話の手法です。対話席には空席があり、対話に参加したくなった方はその空席に座り、話す人が順次変わっていきます。今回は、キックオフトークとしてはじめに3名の方にご登壇いただき、その後は、対話席、司会席ともに交代しながら対話を深めていきました。3名のお話しの後は、司会者も交代。いよいよ登壇者が次々と入れ替わる時間です。空席が生じる時間がないほど多くの方にご登壇いただき、あっという間の1時間半でした。

キックオフトークにご登壇いただいた方

株式会社ゼルビア
地域振興部長
野村卓也さん

NPO法人たがやす
事務局長
斎藤恵美子さん

NPO法人プラナス
事務局長
高井大輔さん

フィッシュボウルトークで語られたみんなと取り組みたい「まちだづくり」

- 選択肢があふれている、自分の生活を自分たちで作れる「まちだづくり」
- 取り組んだ事例が横展開される「まちだづくり」
- 生きるための食べ物をつくる「農業」を大切にする「まちだづくり」
- 周りの人たちの力を借りて、自分たちだけでは作れないことが実現する「まちだづくり」
- 活動をする人・したい人が出てくるような「まちだづくり」
- 心を閉めず、前向きに積極的に爆発するように自分のエネルギーをだせる「まちだづくり」
- 町田の中で支援者たちがネットワークを作り、網の目をしっかり強固にして子どもたちを見守れる「まちだづくり」

キックオフトークの対話の時間では、ご自分の取り組みと共にたくさんの「まちだづくり」をめぐるアイディアや想いが語られました。5周年記念イベントの様子やフィッシュボウルトークの詳細については、ホームページにレポートを掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

詳細はコチラ!

Survey

町田市民活動・コミュニティ活動実態調査結果

2023年12月～2024年1月にかけて、全国で市民活動・コミュニティ活動をしている団体を対象とした実態調査が行われました。市民活動・コミュニティ活動の運営実態を明らかにすることを目的とした調査で、全国513団体の全回答のうち、町田市で活動している84団体から回答がありました。ここからは町田市における市民活動・コミュニティ活動の実態についてレポートします。

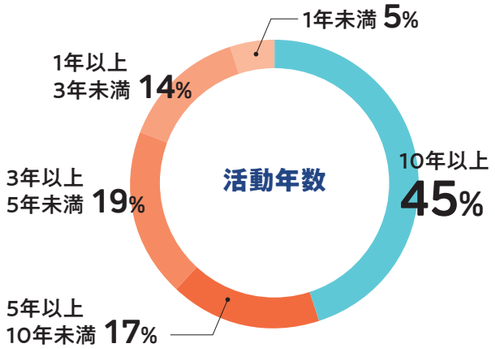
- 調査目的:市民活動・コミュニティ活動の運営についての実態把握
- 調査対象:全国市民活動・コミュニティ活動をしている団体（NPO法人、市民・地域活動、サークル活動）
- 調査期間:2023年12月1日～2024年1月15日
- 回答数:513団体（うち町田市は84団体が回答）
- 調査主体:NPO法人CRファクトリー（町田市地域活動サポートオフィスは調査協力団体として参画）

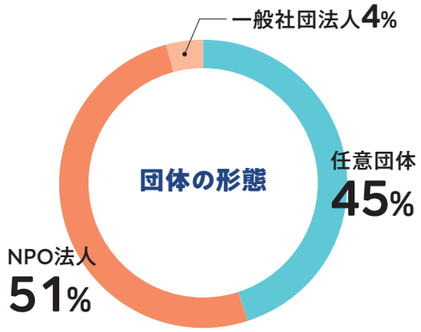
全ての調査結果は、こちらからご覧いただけます

基本情報

全国統計では活動年数を「10年以上」と回答した団体が全体の55%でした。町田市は「10年以上」と回答した団体が45%と半数以下で、比較的活動年数が短い団体からの回答が多い調査結果となりました。

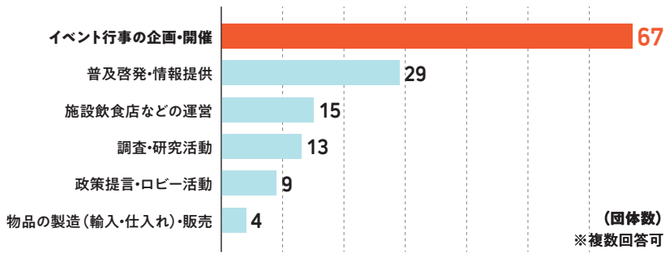
町田市内の団体の回答結果





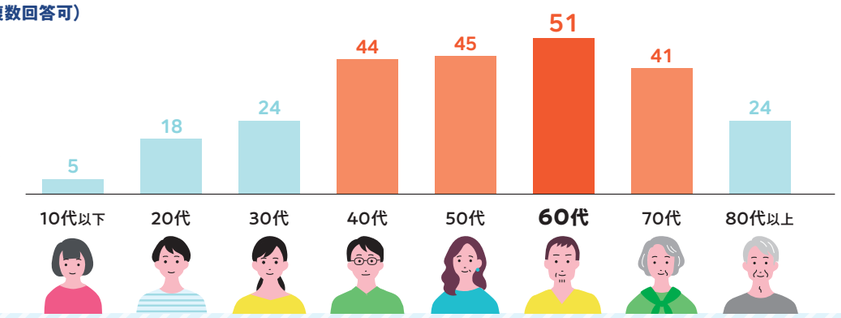
主な活動内容

町田市は84団体のうち67団体（約80%）が「イベント・行事の企画・運営」を選んでおり、全国統計も同様の傾向が見られました。市民活動・コミュニティ活動とは「イベント」であり、規模や種類の様々なイベントを数多く実施して、人を集め、体験をつくり、交流やつながりをつくっていると考えられます。



メンバーの年齢層（複数回答可）

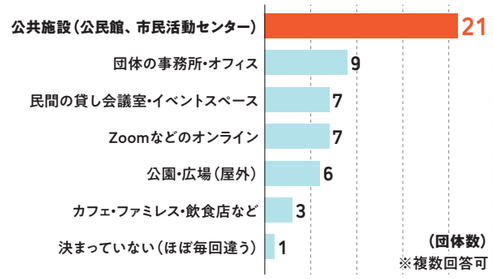
「60代」が一番多く、「40代」「50代」「70代」がほぼ同じ割合となっており、全国統計とほぼ同じ傾向がみられます。



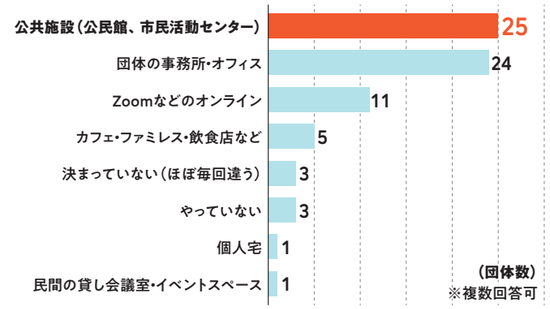
活動場所について

「イベント・行事」や「会議・ミーティング」は、各コミュニティセンターや町田市生涯学習センターなどの「公共施設」が最も活用されています。

団体の主要イベント・行事の主な開催場所



会議・ミーティング開催場所

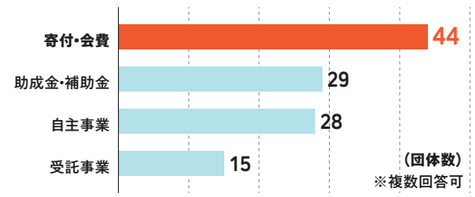


CHECK

イベント等を実施する施設としては、市内の公共施設のほか、地域で運営しているレンタルスペースやコミュニティカフェ、高齢者支援センターの会議室や地域活動を応援してくれる保育園や学校の名前が挙げられていました。サポートオフィスのホームページでは、今回の調査で回答いただいた施設を含め、地域活動団体にイチ押しのレンタル施設・スペースの一覧をまとめています。

資金獲得について

収入源として「寄付・会費」、「助成金・補助金」が多く、全国統計と同じ傾向が見られました。補助金や助成金等へ申請したいが人員不足により申請の準備がなかなか進められない、助成金等を得ても事業継続がギリギリという回答も目立ちました。



団体運営の悩み・課題

自由記述欄には、団体内の悩みや課題が寄せられました。サポートオフィスでは、今後も個別のご相談の他に、団体の事業計画を作成する講座、助成金申請や広報に関する講座等を実施しながら団体の運営をサポートしてまいります。

組織の悩み・課題

「多様なメンバーが対話し協働することの困難さ」
「同じ方向性を向いているかどうか」
「本業を持ちながらの活動なので、事務作業が滞ることがある」
「役員のなり手不足・会員の高齢化」
「活動する人が増えない、資金がない」

広報の悩み・課題

「活動をしながらの広報なので、時間が割けず上手に広報ができない」
「チラシを配布しているが思うように集客できない」
「情報が届けたい人に届いているかが分からない」
「SNSを使って広報したいが、会員の中でできる人が少ない」

IT関係の悩み・課題

「知識のある職員が一部に限られる」
「ITに弱いので十分な活用が出来ない」
「SNSなどを使うべきか、使うのであれば誰が管理するか」
「PCやスマホを持たない会員がおり、電話や手紙でコミュニケーションをとっている」